

理 由 書

駅前幹線は姫路市西駅前町を起点として同市本町に至る延長約 840m、幅員 50mの幹線街路である。

このうち、駅前広場は、J R 山陽本線姫路駅の北側玄関口として計画されたものであり、昭和 62 年に連続立体交差事業に向けて姫路駅周辺において街路網の変更が行われた際に、バス・タクシー・自家用自動車等の駅前広場利用の増加を踏まえて駅前広場の面積を約 6,400 m²から約 16,100 m²に変更している。

しかしながら、現行計画は駅の中央コンコースと駅前広場の間に新駅ビルが建築されることとなり、新駅ビルが歩行動線を阻害するだけでなく、J R 姫路駅から姫路城を望む景観の妨げともなることから、新駅ビルの配置変更とあわせて駅前広場の形状を変更することにより、歩行動線並びに景観の向上を図るものである。

